

働き方改革の現場での実践
求められる環境整備について

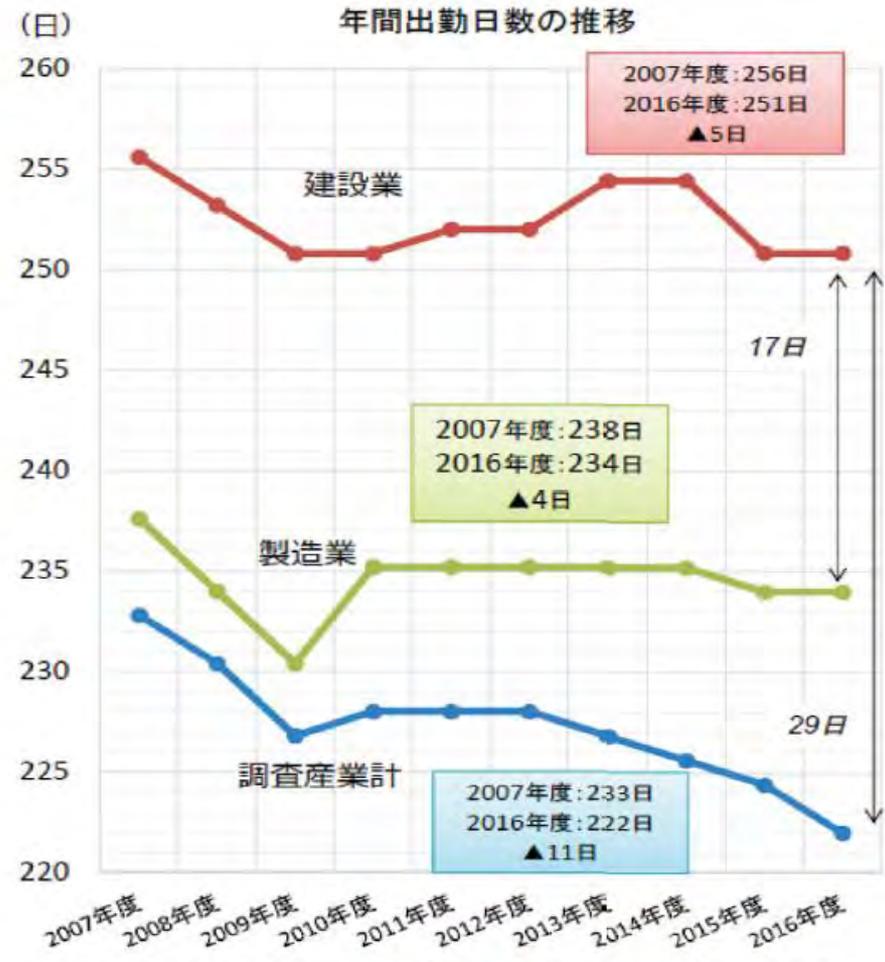
平成30年3月12日

(一社) 日本建設業連合会

他産業との労働時間格差の拡大

■ 年間2,100時間前後で推移しており、**全産業に比べ、年間300時間超の長時間労働**となっている。その大きな要因は出勤日数が多い（**休日の取得が少ない**）ことにある。

労働時間と出勤日数の比較



出典：厚生労働省「毎月勤労統計調査」年度報より国土交通省作成

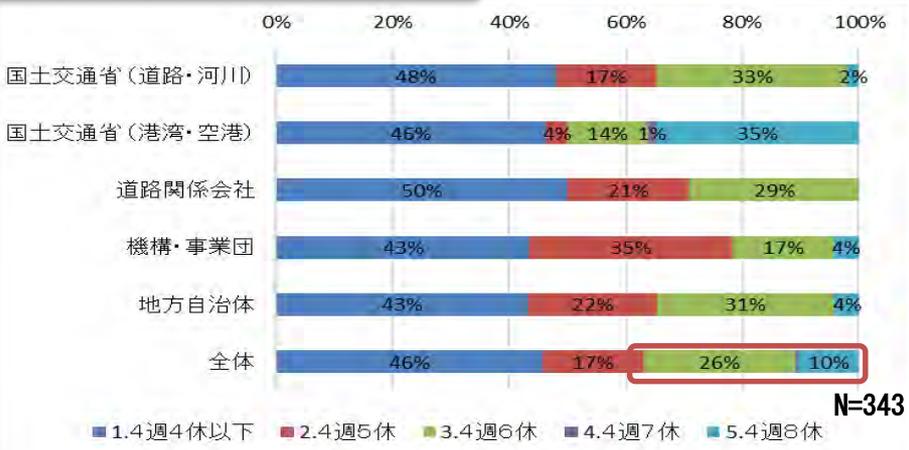
週休二日の本格導入に向けた環境整備

- 日建連では昨年12月「**週休二日実現行動計画**」を策定し、**2年で4週6休、5年で4週8休**の目標に向けて取り組んでいるが、現場における週休二日は**工事開始時に4週6休以上の休日設定した現場は約4割にとどまり、うち約7割は予定通り休めていない。**
- 国をはじめ発注者におかれては、**モデル工事の拡大とともに、適切な工期設定、間接費や労務費の補正**などにより、現場での取組みを後押ししていただきたい。

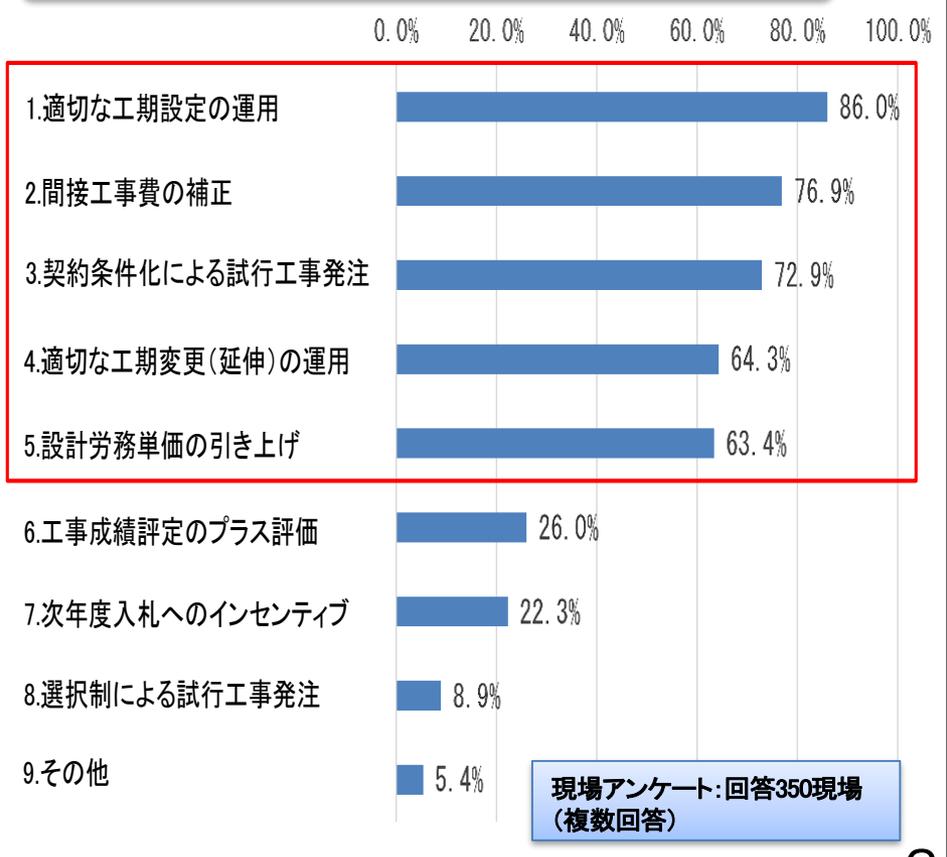
週休二日実現行動計画【基本フレーム】

- (1) 本行動計画が目指す週休二日は、土曜日及び日曜日の閉所とする。
- (2) 本行動計画の対象事業所は、本社、支店等や全ての工事現場とする。
- (3) 本行動計画の計画期間は、2017～2021年度の5年間とし、
2019年度末までに4週6閉所以上、
2021年度末までに4週8閉所の実現を目指す。
- (4) 本行動計画の実施状況について、毎年度フォローアップを行う。

工事開始時の休日設定



週休二日を確保するために効果が大きい施策



建設キャリアアップシステムの構築

(国土交通省資料より)

- 「建設キャリアアップシステム」は、技能者の資格、社会保険加入状況、現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積する仕組み
- システムの活用により技能者が能力や経験に応じた処遇を受けられる環境を整備し、将来にわたって建設業の担い手を確保
- システムの構築に向け官民（参加団体：日建連、全建、建専連、全建総連 等）で検討を進め、平成30年秋に運用開始予定
- 運用開始初年度で100万人の技能者の登録、5年で全ての技能者（330万人）の登録を目標

①技能者情報等の登録



【事業者情報】

- ・商号
- ・所在地
- ・建設業許可情報 等

【技能者情報】

- ・本人情報
- ・保有資格
- ・社会保険加入状況等

【現場情報】

- ・現場名
- ・工事の内容 等

②カードの交付・現場での読取



現場入場の際に読み取り



技能者にカードを交付

③システムによる就業履歴の蓄積

技能者情報のイメージ

ID	123456789012	
氏名	建設 太郎	
生年月日	S55 1980/07/28	
保有資格	登録基幹技能者	2016.09.20
技能講習	玉掛け	2008.05.21
特別教育	ロープ高所作業	2005.11.09
社会保険加入状況	健康	退職金共済
	<input type="checkbox"/> 協会健康	<input type="checkbox"/> 健康共
年金	<input type="checkbox"/> 厚生年金	
雇用	<input type="checkbox"/>	

技能者の保有資格や社会保険の加入状況をシステム上で確認することが可能に

技能者の就業履歴（いつ、どの現場で従事したかの実績）が蓄積される

就業履歴情報のイメージ

雇用事業者	現場名	就業年月	就業日数
〇〇建設	××ビル	2019.6	22日
〇〇建設	□□住宅	2019.7	19日
〇〇建設	国産△△号	2019.8	11日
計	3現場		52日

技能者の処遇改善が図られる環境を整備

※システム運営主体
(一財) 建設業振興基金

建設キャリアアップシステムのメリット

(国土交通省資料より)

技能者の処遇改善

○経験や技能に応じた処遇の実現

- ・システムに蓄積される就業履歴や保有資格を活用し、
技能者をレベル分けする能力評価基準を検討
(レベルに応じてキャリアアップカードを色分け)
- ・技能者の能力評価と連動した専門工事企業の施工能力の見える化も進め、良い職人を育て、雇用する専門工事企業が選ばれる環境を整備

技能者の能力評価基準の要素

- 保有資格 (キャリアアップシステムに登録される)
- 就業履歴 (キャリアアップシステムに蓄積される) 等

これらを含み合わせて評価

評価基準に合わせてカードを色分け



現場管理の効率化

○社会保険加入状況等の確認の効率化

- ・現場に入場する技能者ひとりひとりについて、社会保険の加入状況等の確認が効率化

事業者名	技能者名	就業日数	社会保険加入
〇〇建設	〇〇〇男	11	○
〇〇建設	建設太郎	10	○
××工務所	〇〇〇子	20	○
××工務所	〇〇次郎	20	○



○書類作成の簡素化・合理化

- ・施工体制台帳や作業員名簿の作成の手間やミスを削減

作業員名簿 (イメージ)

氏名	職種	生年月日	現住所
〇〇男	型枠工	〇年〇月〇日	〇〇県〇〇市 ~~~~~
建設太郎	型枠工	△年△月△日	△△県△△市 ~~~~~
〇〇子	鉄筋工	〇年〇月〇日	〇〇県〇〇市 ~~~~~
〇〇次郎	足場 とり工	■年■月■日	■■県■■市 ~~~~~

※赤字部分にシステムに蓄積された情報が反映される

○建退共関係事務の効率化

- ・技能者に証紙を交付する際の事務作業が軽減 (現在は手作業で必要書面を作成している)

キャリアアップシステム



就労実績を把握

↓ 下請

就労実績の報告

↑ 証紙交付

元請

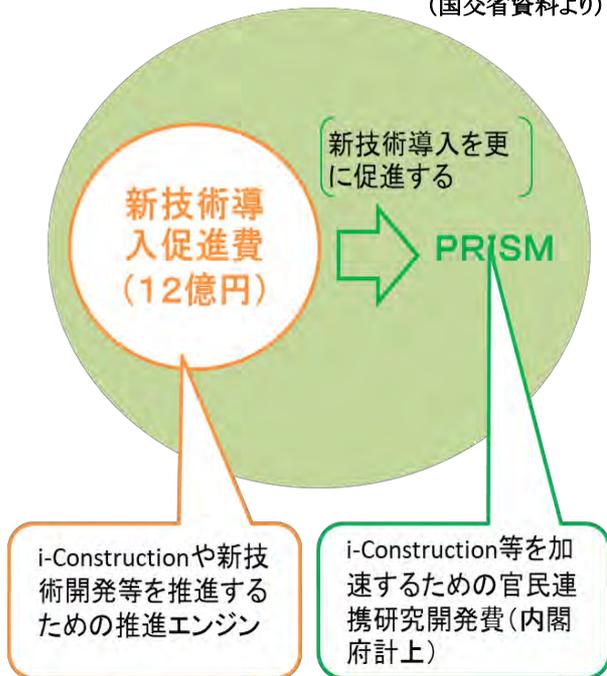
※建退共において、証紙に替えて電子的に就労実績を把握する方式の導入について検討が進められている

i-Constructionの推進①

- 週休二日をはじめとする働き方改革を進めるためには、生産性の向上により、その原資を確保する必要であり、**i-Construction**や**技術開発の推進が重要**。そのため、国が推進役となり、**新技術導入促進費**やPRISMによる**予算を確保**していただきたい。
- また新技術を導入しやすい**入札制度**や**施工段階の環境整備**を進めていただきたい。

予算の確保

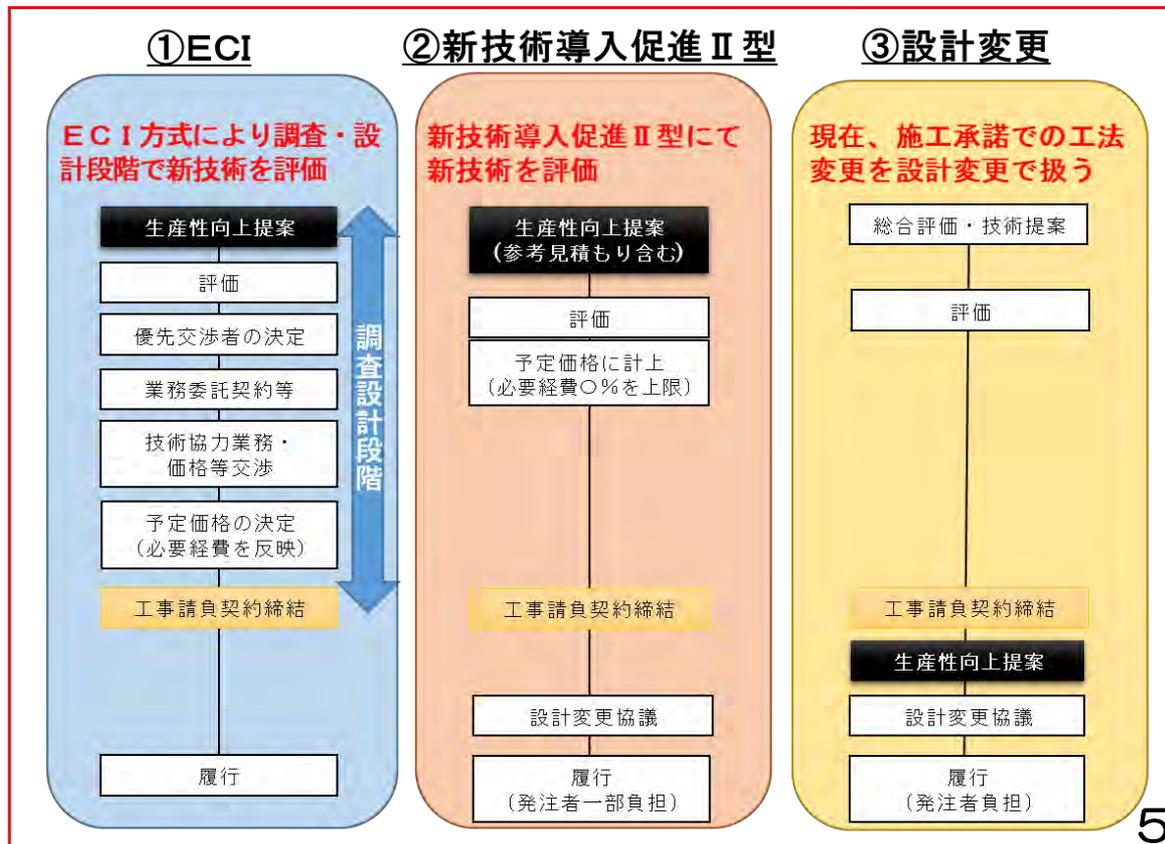
(国交省資料より)



これら予算を活用して公共事業のイノベーションを推進

新技術を導入しやすい入札制度等

<提案例>



i-Constructionの推進②

■現場の生産性向上を図るため、業務の効率化に効果が高く、受発注者の負担軽減につながる**書類の簡素化（ペーパーレス化）**、**Webカメラ等のICT**や**ISO（品質マネジメントシステム）**の活用等を通じた**監督・検査業務の効率化**が求められる。

書類の簡素化

(国交省中部地整の取組みより)

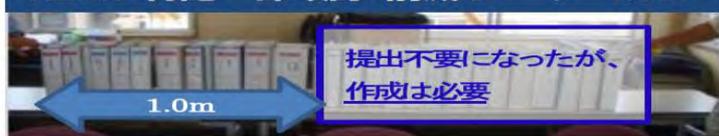
従前の検査での持込： 約 4.1m



H27.3.20 付通知・二重納品防止： 2.0m



H28.7 特記一部改訂：削減イメージ 1.0m



更に、書類の作成そのものが不要な書類を点検、ペーパーレス化へ

作成そのものを不要へ

←作成そのものが不要な書類がないかを点検→

Webカメラ等を活用した監督・検査業務の効率化



ウェアラブルカメラ、iPadにより画像、写真など撮影



ISOを活用した監督・検査業務の効率化

(国交省資料より)

